

1 教育目標

○ 心豊かで、自ら考え行動できる生徒の育成。

【校訓】 ○自主 ○勤労 ○敬愛

【経営スローガン】 「努力夢現」 ～努力を続けることで、夢や目標が実現・達成できる学校～

2 学校経営方針

「一人一人を大切にし、社会を生き抜く力を育む」

これからの社会を生き抜くために、主体性があり自己肯定感の高い生徒を育てていく→「生きる力」

そのために

- ① 教育のベクトルを合わせる
- ② 教え込む教育から考えさせる教育への変換
- ③ 学校は失敗が許される場所、分らないが言える場所であること
- ④ 目標は乱立しすぎず、成功させるための手段を考えさせる。

3 重点目標

- (1) 確かな学力の向上
- (2) 生徒指導・教育相談の充実
- (3) 健康・安全教育の推進
- (4) 教育環境の整備
- (5) 開かれた学校づくりの推進
- (6) 働き方改革に向けた職場づくり

4 自己評価

領域	項 目	質 問 内 容	アンケート集計			分析及び改善策
			肯定的割合（％）			
			生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	91	86	100	教育目標は校内の多くの場所に掲示し、生徒、職員が常に言えるよう工夫している。本年度は玄関モニターを追加活用した。7月実施よりは、生徒の満足感90%を達成されたが、保護者の教育目標の達成の項目、新設した愛校心の項目で90%に達成できなかったのは、コロナ禍で学校へ来校する機会が減少したことよることが原因と考えられる。「わからない」とに回答も10%あることから引き続き学校により、学校HP等での周知、コロナ後の教育活動の充実に向けて取り組みを推進したい。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	91	90	94	
	愛校心	本校が取り組んでいる教育活動に、満足している。	91	88	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			89	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			83	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	97	85	94	全体的に高評価ではあった。しかし、昨年よりも保護者すべての項目で90%を下回った。職員との差が平均14%あり、教育活動を実践しているのも関わらず、いじめ防止や人権・平和の項目において「わからない」が10%を超えている点において、生徒自身が学校での出来事を家で話さないことや周知不足が考えられる。より工夫して学校の教育活動を周知する必要がある。
		挨拶をよくしている	95	88	100	
		自分で考え、前向きに頑張っている。	88	86	100	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	86	81	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	94	77	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	95	88	100	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	95	87	94	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	85	82	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風の実態に即した教育を行っている	89	83	89	確かな学力では、県の学力向上の項目を新設した。三者とも80%を下回る項目があった。今後の学力向上を図るためにも職員の意識改革をはじめ、生徒、保護者への家庭教育の充実について共有していく必要がある。「キャリア教育」の項目では、特に低いポイントとなっている。これもコロナ禍で、本来の教育活動が実践できなかったことや校内での教育活動が保護者への周知ができていないことなど、今後キャリア教育の充実に向けて取り組む必要がある。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている。	92	77	94	
		自主的に意欲的に授業に取り組んでいる	90	75	89	
		自分に必要な学習を自覚し、粘り強く計画的に取り組んでいる	78	71	78	
		家庭学習の習慣が身に付いている。	63	42	67	
	読書	子どもは本に親しんでいる	57	42	67	
	GIGA	GIGAスクール構想を踏まえ一人一台端末を活用を図っている。	82	86	100	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	79	56	89	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	92	69	83	

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	92	90	100	衛生管理の評価が高かったのは、コロナ禍の状況で、可能な限りの対策を講じていることに起因している。「基本的生活習慣」の項目は、昨年よりも割合がアップしたが、90%に達成できなかった。計画的に生活するように自分自身でスケジュールを立てて生活する項目が低いことから、次年度の重要ポイントとして明らかになった。体力の向上・食育については、具体的な項目に新設したことや昨年以上に食育に関する講演会等を実施した。講演会を起点にして実生活に生かす活動をしていく必要がある。
	体力向上	基本的生活習慣が身に付いている	88	86	89	
		学校行事・体育的活動、部活動に意欲的に参加している。	95	90	100	
		30分以上の運動をして、体力向上に努めている。	83	80	89	
	食育	食に関する教育活動を行っている	92	81	94	
信頼される学校	安全管理・安全教育	児童生徒の安全に気を配っている	85	83	100	安全教育研究2年目として、保護者、地域と連携して安全教育の実践を行い、昨年以上に高い割合であった。しかしながら、連携の項目で昨年より割合を下げたのは、コロナ禍ということで、三者それぞれ活動実践した中、連携している意識が低かったことが考えられる。活動はしたが、準備段階での話し合い活動ができなかったことが要因として考えられる。その中でも育成協との合同の体育大会を企画できたことは、今後の地域の開かれた教育活動を実践していく上で重要であったと考えられる。
		安全に関する教育を行っている。	93	83	100	
		安全に気をつけて生活している。	97	90	100	
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	84	94	100	
	PTA・地区との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	85	86	100	
教育環境	職員の資質向上	研修が充実し、資質が向上している			89	「安全管理」と「環境整備」と災害への対策に万全を期しているが、校舎の老朽化は否めない。その中で、雨漏りの対策や迅速に対応した。生徒の目に触れないような対応であったため、老朽化が目立っているように感じる。今後も行政と調整し、対応していきたい。「職場環境」において、前期と比較し10%下がった。学期が進むに従って公務の偏りが明確になったこともあるが、人材不足の中で偏りが明確になったとも考えられる。働き方改革の中の働き方の意識改革をしていく必要がある。職員の心身の健康を図りながら、教育活動の充実を目指す。
	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	87	93	100	
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			89	

5 自己評価のまとめ（成果・課題・対策等）

- ・保護者の回収率は70.4%（7月WEB回答）、87.9%（12月WEB回答）。昨年より回答率は高くなった。WEB回答も定着してきた。
- ・長崎市R3から評価項目を新しくした。より具体的に評価できるように工夫を重ねていく。
- ・「わからない」という回答項目を新設。コロナ禍で、状況が伝わっていないことがあり開設した。「わからない」の回答が20ポイント以上のキャリア教育等は、学校だより・HP等の周知の工夫が必要であった。
- ・学力向上に向けた具体的な目標に「授業時間以外の学習活動2時間（塾・放課後を含む）」と具体的な項目とした。特に保護者の厳しい評価となった。
- ・家庭学習の質問が「授業以外で2時間以上学習している（タブレット、塾、学校での自習を含む）」という県の示す学力調査の内容に変更。昨年と比べ大幅な減となった。自主的に計画をして学習をする項目と合わせて、変換期にあり、今後の取組を工夫をしたい。

6 学校関係者評価

- ・家庭学習では、1・2年生では、学校で決めてもらわないとできないのではないか（育友会）。
- ・小学校で落ち着かなかった生徒が落ち着いている。
- ・地域での子どもとのふれあい、朝の見回り、朝の挨拶（手をふってくれることも）がとてもよい。
- ・今からの学力は、「学ぶ力」を育てることが大事。自分で探求心をもって学習する力が身につくように、小学校と連携しながらやるのはどうか。
- ・ダイヤランドまりづくり協議会で、小学校6年生と「まちづくり」について講演した。「子どもたちができるまちづくりとは」という視点で教育できないか。
- ・スマホ等の所持率が気になる。家庭でのルール作り、適切な利用についての継続指導が必要ではないか。
- ・保護者に「就学前の子どもたちの教育」がとても大事というように講演会を開催するのはどうか。（講師：浦川旧県教育委員）

7 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- ・学校評価、学校関係者評価（学校評議員）を受けて、令和5年度に向けて早急に対応すべきもの、時間をかけて検討すべきものを精査し、教育活動の充実を目指す。
- ・数値の低かったものや、経年比較の結果数値が下がっている項目について重点を置き、令和5年の学校経営を提示し、教職員の共通理解と共同実践を目指す。
- ・学校評価を含め、保護者への学校の周知が必要。わからない割合及び否定的割合をなくしていく方法を検討。（学校だより・HP更新・安全安心メールの活用。学校評価質問欄に具体的な活動の計画を示して調査する等工夫）
- ・家庭学習の行い方をはじめ、「学び方」について再度指導の仕方を検討したい。キャリア教育とカリキュラムマネジメントの再構築。